

事務局【方針】案

1. 本年度の目標

1. 支部会員の拡大 130名
(年度当初123名、昨年度プラス3名)
2. 「たのスポ」拡大を5部行う
(現支部会員購読が62部52%、昨年度プラス0名)
3. 支部例会20名以上 (昨年度平均19名)
～OB連携で子どもスポーツクラブ～ (コロナ情勢による)
4. 会費の11月中・完納 (昨年度11月末時点で75%)
5. 支部研究大会への会員参加85名約70%
(北河内枚方オンライン研究大会へは会員58名約50%)
6. ブロック・プロジェクト・OB会との連携強化 (昨年度特に幼年Pで躍進)
7. 健全財政化に向けて (約20万円。。。)
→①研究財産のパッケージ化・商品化②オンラインハウツー例会の企画など

2. 事務局員

日名・佐々木・下村・宮本・濱山・神谷・出水・井上・神原・松世・齋藤・古川

3. 各目標の総括

(1)「1. 会員拡大」について

2020度は1名増、この9月からは3名の新入会員を迎えて123名(9月25日現在)の大
阪支部会員総数となりました(そのうちニュース会員16名)。

昨年度は学生会員の拡大が特徴的でした。

会員(研究仲間)拡大には、

- ①体育同志会(民間教育研究団体)の**教育理念**(民主教育)の拡大、
- ②**実践量**の拡大、
- ③**豊かな実践・情勢分析**(異質協同)への拡大・深化、豊かな実践へと質の深化
- ④**学習量**の拡大とその質の深化、
- ⑤**活動量**の拡大と深化、
- ⑥体育同志会の**研究財産の継承・発展・変革・創造**(主体者形成論)

という、6つの重要な意義を含んでいると考えています。

大量退職期をようやくやり過ぎた(2014年14名、2015年8名、2016年6名、2017年8名の内
退職者2名、2018年6名の内退職者は2名、2019年3名の内退職者1名、2020年度3名のうち退職者0
名)とはいえ、厳しい教育情勢(経済最優先の小3-小4外国語活動・プログラミングなどますますの

選別／道徳教科化／キャリアパスポート実施／子どもの貧困／少ない教員数による多忙蔓延化／コロナ禍など）の中で画一化され、パッケージ化された教育実践が横行しています。教育の王道を地で行くような、時数や労力のかかる体育同志会実践は現代の教育情勢の中では口に合いにくい（一般化しづらい）、ご当地の風土から生み出された郷土料理のようなものなのかもしれません。

しかし、この風土（地域や子どもたち）とともに創る教育に飢えている若い先生方は少なくないのではないのでしょうか（2014 年 5 名、2015 年 6 名、2016 年 14 名、2017 年 9 名、2018 年度 4 名、2019 年度 6 名、2020 年度 4 名の入会者）。そういう先生方に地道に声をかけてニーズと気力を掘り起し、会員（研究仲間）として迎え、ともに、民主教育研究活動・運動に取り組むこの組織をより大きく、より強く、よりしなやかに継承・発展させたいと考えています。

今年度は 9 月から 3 名の入会者があります。これまでの入会者のほとんどは、会員とのつながりから入会に至っています。ブロック例会や支部の活動を通して地道なつながりを作りながら、拡大していきたいと思います。そして、各ブロック（風土）の活動情報をつかみ、会員拡大に事務局として必要な方策を練っていききたいと思っています。

来年度以降も退会される方が皆無ではないと思いますが、「現会員がより主体的に同志会活動に参加できるように！」と前向きに、同志会活動を広げていく取り組みを進めていきたいと思っています。

神谷ゼミ生は将来的には中高体育教員志望や研究者志望の方が多く、この間大阪支部では伸び悩んでいた会員層になります。幼・小・障が研究の中心でしたが、今後は一層の系統性研究や各領域体系の実証研究が進められることが期待されます。

事務局としては、毎月の常任会議の場で、これまでの例会や支部大会参加者を「入会声掛け対象者」として紹介し、以後の例会での声掛けを意識していただくように呼び掛けてきました。今年度も、定期的に各例会へ参加されている未会員の方の情報を各ブロックと共有していきます。

【この間の会員数増減推移】

2014 年度入会者 5 名・退会者 14 名、2015 年度入会者 6 名・退会者 8 名、2016 年度入会者 14 名・退会者 6 名、2017 年度入会者 9 名・退会者 8 名、2018 年度入会者 4 名・退会者 7 名、2019 年度入会者 6 名・退会者 4 名、2020 年度入会者 4 名・退会者 3 名（2021 年 9 月 25 日現在）

（2）「たのスポ」購読者の拡大と継続の取り組み

2 年連続で、大阪支部でのたのスポ拡大が滞っています（大阪支部会員購読率 50 %）。

2017 年、2018 年の 5 名規模の拡大は各ブロックでの「たのスポ学習会」を機会としていましたので、各ブロックで学習と拡大とのセットで取り組んでいただくよう、また各ブロックの購読状況情報も整理して、各ブロックと連携をとっていきます。

コロナ禍の一年半を過ごし、実技例会などの対面例会がほぼ開かれませんでしたので、なかなかたのスポを宣伝する場を持たない状況でもありました。今年度は、宣伝の機会を少しでも増やせるようにしていきたいと思っています。

2015 年 3 月にて『たのスポ』は月刊化を終了することになり、2015 年 7 月からは季刊として装いも新たに新たなスタートをきることになりました。全国的にもたのスポ購読数が減り続けていましたが、2019 年度で減り止まりの兆候が表れてきたということです。分かりやすく購入しやすい『たのスポハンドブック』（過去のたのスポ原稿を各領域ごとにまとめたもの）を足がかりに、購読の拡大をすすめていきたいと思っています。

（3）「3. 支部例会参加 20 名以上」～OB連携で子どもスポーツクラブ～

支部例会とブロック例会が続くことによって各ブロックからの参加困難感を解消するため

に、2018年度からは大阪支部例会の予定日の前後2週間は各ブロック例会を開けて頂けるように各ブロックにお願いし、連携をとってきました。今年度も各ブロックと連携をとって、スケジュール調整によって事務局として支部例会参加者増の可能性を広げたいと考えています。また、2019年度からは、「SENSE I イベントポータル」などウェブでの例会周知を行い、参加者・会員増につながりました。今年度も事務局員で取り組んでいきたいと考えています。

コロナ禍にあって、オンライン例会によってこれまで会場へ足を運びづらかった会員の方の参加が目立ちました（幼年では劇的に参加者増とのこと。子育て世代にとっては足を運ばなくていい音声のみ参加も可能）。一方で、対面のよさ（①参加者の表情やしぐさによる理解度の把握、②報告の間の取り方、③気軽に声をかけたり手を挙げての質問のしやすさ、④集団による学習空間だからこその集中力維持）も浮き彫りとなりました。今後のオンライン運営にこれらのことを意識的に反映させていければと考えています。

オンライン例会を1年半ほど開催してきて、支部研究大会も完全オンラインで成功しました。Zoomの使用方法もだいぶ分かってきたところなので、次年度もオンラインでの参加と合わせて積極的に呼びかけていきたいと思います。

また、大阪支部は子育て世代会員の多さが全国の中でも特徴的（20歳代～40歳代が70%）であり、5年後10年後の支部活動を支えるであろう子育て世代も支部例会に参加しやすい環境をつくることも大切なことだと考えています。2017年度の支部大会（中河内）でOB会員と連携をとって「子どもスポーツクラブ」を行い、2018年度は年間を通して事務局管轄で子どもスポーツクラブを実技例会ごとに企画し、一定の参加数がありました（南河内ブロック、中河内ブロック、北河内ブロック、豊能三島ブロック）。コロナ禍では中止とせざるを得ませんでした。年度も、可能な限り「子どもスポーツクラブ」を運営していきたいと考えています。OBからは、「現役世代と連携をとり、超困難な現代日本教育の民主教育運動を支えたい」（2019年8月、土佐朝一さんから黒井さんへの手紙より）との声もいただいています。

（4）「4. 会費の11月中完納」

官制研究会と違って、研究の自由が得られるのが、私たち民間教育研究団体の特徴です。自由な研究によって、くだらない成果主義研究、忖度研究ではなく、目の前の子どもたちの事実から真理真実を追求するための実践研究が可能となります。そのことによって、理性的で平和で自由な社会が作られていきます。ですから、志を同じくする会員から早急に会費を集めることが重要だと考えています。

12月初旬の時点で、2017年度は65%、2018年度は85%、2019年度は87%と、着実に早期納入率は上がっています。

2020年度はコロナ禍にあっても75%でした。対面例会開催が難しい中、11月の支部研究（豊中）大会で直接手渡しをたくさんいただきました。その後、事務局からも納入願いを支部ニュースへ同封続けてきました。

今年度は直接例会での納入が厳しい状況になります。各ブロック、プロジェクトでも積極的な声掛けをお願いします。12月の全国事務局への会費納入に向けて、このペースを維持しながら、一層会員の方にも協力いただけるよう、今後も各ブロック・プロジェクトと連携を密にしていきたいと思っています。

（5）「5. 大阪支部研究大会」成功に向けて

大阪支部の各ブロック、プロジェクトでの研究成果の交流の場と位置付けてきたこの大阪支部研究大会へ、多くの会員、未会員の参加者を集めることが、次年度への大きな研究活

動、運動の拡大につながると考えています。

9月開催だった北河内大会はオンラインという難しさがありながら、目標の会員60名(50%)参加にせまる58名の会員参加がありました。全体では80名の参加を達成しました。

今年度は南河内での大会が予定されています。4月の一次ビラが作成される頃から、会員参加85名(約70%)達成に向けて月ごとの参加者情報を集約し、各ブロック、プロジェクトの皆さんと連携をとって進めていきます。また、「せんせいポータル」なども活用し、未会員の参加者増にも努めます。

(2006年箕面88名、2007年枚方78名、2008年南河内78名、2009年市内70名、2010年中河内129名、2011年泉州95名、2012年奈良120名、2013年吹田128名、2014年北河内125名、2015年みのお全国523名、2016年南河内88名、2017年泉州89名、2018年中河内134名、2019年奈良84名、2020年豊能三島110名)。

(6)「6. ブロック・プロジェクト・OB会との連携強化」について

大阪支部は、全国各支部の中で唯一と言っていいほど、各ブロック、プロジェクトでの計画的な教育研究活動、運動が1985年前後から続いている研究組織です。この組織体制によって、多忙な中でも、3桁会員を維持し、また40歳代までの若い会員を70%も抱える支部を維持し続けています。

そのブロック、プロジェクトのみなさんと事務局との連携は、必要不可欠なものですが、多忙な中でなかなか連携をとることができていませんでした。各ブロックの風土(活動の様子、実践の特徴、会員の状況、地域の状況など)をつかみ、どのように事務局として大阪支部の活動活性化にいかせるか・つなげられるかを、今年度も多忙な中で模索していくことに挑戦していきたいと考えています。

また、「次世代の育成」についても考えています。2018年度からは支部とブロック共催の実技例会が実施され、事務局では参加者の子どもを集めて保育を2回運営しました。2019年度はOB会員の協力を得ながらも前半は子どもの参加がなく、後半は新型コロナウイルスの影響で未開催となりました。今年度は新型コロナウイルスの影響も鑑みながら、可能な限りの「子どもスポーツクラブ」の開催などによって各ブロックの子育て世代の参加をバックアップし、5年後10年後にはブロックや支部運営に携われる会員の育成に寄与したいと考えています。

OB会との連携については、新型コロナウイルスの影響で例年と比べてほとんど進まない状況にありますが、歴史学習などOB会主催の催しを会員へ紹介して参加があるなど、細々とした連携は続けることができました。今年度も新型コロナウイルスの影響は収まる気配がありませんが、可能な範囲で合同例会やオンラインでの合同企画によって連携を深め、大阪支部の研究・文化財産を共有できればと思います。

(7)「7. 支部の健全財政に向けて」

大阪支部は、他支部とは違って、毎年研究の成果を「KICK OFF」という研究機関冊子を作成し続けています。また、常に新しい分野へとアンテナをはり、自分たちの立ち位置を確認したり新しい境地を切り開くためには、他支部や他団体からの講演などによる研究交流が欠かせません。これらの研究費用を捻出するために、そして継続可能な教育研究団体としていくために、健全財政は欠かせません。

しかし、2017年度は収入減(主に民舞教室)により赤字決算(約5万円)でした。

2019年度は新型コロナウイルスの影響により民舞教室開催がかなわなかったため、約20万円の収入が得られませんでした。11月の支部大会(豊中)に目標以上の参加があり、大会の方から特別上納として民舞教室分を補えるほどの納入をいただきました。

また、大阪支部で購入したズームアカウント費用も 11 月の支部大会経費で支出していただきましたので、ウェブ開催での会議、例会が続いているため会場費も例年以上に抑えられました。

さらに、2020 年度も支部ニュース印刷で支出を抑え、さらに「KICK OFF」もオンライン印刷により例年から約 10 万円の支出減となりました。

支出を減らしながら、様々な新しい収入源（「出張実技例会」「オンライン例会への未会員有料参加」「実践道具制作販売」など）を事務局でも検討していきたいと思います。

【以下、この間の財政状況のメモとして】

- ①収入減の大きな原因は民舞教室からの収益減。
- ②支出を抑えるために 2018 年度からは支部ニュースの自前印刷を実施し、これによって年間約 10 万円の支出減に成功。
- ③塩田さんの大学所有会議室（ハルカス）を三局会議で無料使用させていただいたおかげで、年間約 5 万円の会議費を減額。また、2020 年 7 月は神谷さんの関大梅田キャンパスを使用。可能な限り、会場費削減を今後も模索の必要。
- ④2019 年 4 月からのクロネコメール便の約 2 倍の郵送費値上げへの対応としては、郵便局での別納郵便の契約。これにより、郵送費の値上がりを 25%増に抑えた。
- ⑤近年の支部財政課題である収入減が続く中、2019 年度は、新型コロナウイルスの影響で、大阪支部研究大会、民舞教室が未開催。ますますの支部財政逼迫の予想。備蓄金をやりくりしながらしのぎ、2021 年度以降は備蓄金を増やすためにも収入増についてこの一年間で様々な方策の検討と活動を。

4. 事務局年間活動

月	活動内容		事務局ビラ
9	・新年度会員名簿作成 ・年間パンフレット作成 ★支部大会	会費完納の取り組み ※たのスポ読者管理	①冬大会【 】 ②年間パンフ(表裏)【 】 ③新春ビラ【 】
10	・年間パンフレット（一次ビラ）	10月、11月支部ニュースにビラを入れる。	
11	・年間パンフレット（確定ビラ）発送 ●冬大会参加呼びかけ	・財政点検活動	
12	・会費完納→12月三局までに各B建て替え ・【新年会企画】 ●関近ブロック参加呼びかけ①		①冬大会【 】 ②新春ビラ【 】
1	【新春記念講演会＆新年会】 ●関近ブロック参加呼びかけ ※「民舞教室」後援申請		①関近集会【 】
2	●関近ブロック研究集会（青年フェスタ） ※たのスポ継続の取り組み①		①関近集会【 】
3	・中間総括 ○民舞教室の宣伝【1】 ※たのスポ継続の取り組み② ◎同志会まつり呼びかけ【①】		①同志会まつり【 】 ②中間研究集会【 】 ③民舞教室【 】
4	・支部大会（1次ビラ）、民舞教室パンフレット作成＆発送 ○民舞教室の宣伝【2】 ◆中間研究集会参加よびかけ【1】 ◎同志会まつり呼びかけ【②】		①同志会まつり【 】 ②民舞教室＆支部大会一次ビラ(会員＆各ブロック)【 】 ※各ブロック分は担当で ③中間研究集会【 】
5	◎同志会まつり ◆中間研究集会参加よびかけ【2】 ・民舞教室パンフレット発送 ・支部大会＆全国大会パンフレット発送		①支部大会一次ビラ 【 】 ②中間研究集会【 】
6	◆支部大会＆全国大会参加者拡大 ・総括計画（事務局・研究局・研究部・編集局・たのスポ、ブロック、プロジェクト）		①支部大会確定ビラ【 】 ②全国大会ビラ【 】
7 8	・総会準備 7月総括会議 全国大会に向けての準備 ◆大阪支部＆全国大会参加者の集約・拡大のよびかけ ・総括文書、運動文化研究 発送		①支部大会確定ビラ【 】 ②全国大会ビラ【 】